

1960-5

- ①国連主催の空中調査セミナーに出席して2
- ②鹿の歯の化石5
- ③泉源保護の実地調査6
- ④東海に残された用水適地10
- ⑤天然記念物(その3)16
- ⑥各部課を尋ねて(2)20

地質ニュース No. 69

表紙の写真 石灰石の露天掘 四国路⑤(5万分の1 伊能・須崎)

高知県下には数多くの石灰石採掘場がある。現場はツチの音やハッパの音もすさまじく豪放で男性的だ。石灰石は「秩父古生層」中のもをにおもに採掘している。この大平山鉱山は高岡郡佐川町地内にあり鳥の巣統を下盤とした古生代の砂岩・頁岩中の石灰石鉱床である。ここはかつてサンデー毎日で紹介されたこともある。この写真は上向階段露天掘でほとんど最上部近くまでのびてきていて作業中の鉱夫はアリのようとうごめいているのが見られる。(石)

プリモフレックス トプコール 75mm ネopanSS f8
100分の1 T-2 D-76 月光V-3 コレクター

国連主催の空中調査セミナーに出席して

物理探査部長 佐藤光之助

国際連合主催の空中調査の方法および装置のセミナーがタイ国政府の協力のもとに1960年1月4日から2月5日までバンコックにおいて開催された。このセミナーには日本代表として佐藤物理探査部長が出席したので会議の概要を述べてみよう。

空中調査セミナーの計画は1958年カルカッタにおいて開催されたE C A F E 鉱物資源開発小委員会の席上勧告されたものでE C A F E 地域における経済開発のための調査事業に対する国際連合の技術援助活動の1つであった。その議題は現在世界で用いられている空中調査の技術と装置・適応性と限界・調査の組織などに関する情報の交換および伝達・E C A F E 地域における特殊問題の検討であった。

セミナーにはE C A F E 地域および欧米の諸国23カ国80人の代表が参加しまた国際連合から2名の専門家が招へいされた。ここでとくに注目すべきこと

はE C A F E 地域の大部分の国々が非常に熱心はこのセミナーに参加したこととくにタイ・フィリピンは多数の代表を送ってきたことである。またアメリカ・ソ連はセミナーの各議題ごとに専門家を揃えて代表団を構成したほど深い関心を示しその他の欧米諸国からはおのおの得意とする技術のエキスパートを派遣してきたのである。

セミナーは各国からの空中調査に関する技術的報告の発表 技術的討論 技術の展示等について行われた。

これらは航空写真・航空写真測量・航空写真調査・航空写真地質調査・空中物理探査などの議題について行われた。各国からは63の報告が提出されそれらのうちいくつかはセミナーの席上口頭で発表された。わが国からは航空写真地質調査と空中物理探査に関する報告が発表された。

E C A F E 地域において空中調査はきわめて重要な



会議に出席した各国代表団